

令和8年度第1回

豊田市社会福祉審議会 高齢者専門分科会 議事録

日 時：令和8年7月31日（金）

午後2時～午後4時

場 所：市役所南庁舎5階 南51会議室

Web併用会議

■ 出席者

（豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会委員）

所属機関・団体名	氏 名	出欠
日本福祉大学中央福祉専門学校	長岩 嘉文	○
中京大学 現代社会学部	中田 雅美	○
一般社団法人 豊田加茂医師会	榎本 康宏	○
一般社団法人 豊田加茂歯科医師会	谷川 博伸	○
一般社団法人 豊田加茂薬剤師会	山田 雄三	○
社会福祉法人 豊田市社会福祉協議会	後藤 哲也	○
豊田市民生委員児童委員協議会	鈴木 隆昭	○
豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会	大脇 健	○
豊田市ファミリー・サービス・クラブ	三崎 祐子	○
豊田市高齢者クラブ連合会	武田 恭弘	○
豊田市介護サービス機関連絡協議会	傍嶋 博志	○
豊田市ボランティア連絡協議会	太田 芳彦	○
市民公募	加藤 滋代	○
市民公募	佐藤 美樹	○

■ 令和8年度第1回 豊田市社会福祉審議会 高齢者専門分科会 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画に関すること

【議題1】第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の取組実績について（報告事項）

【議題2】介護予防事業の変更内容について（報告事項）

【議題3】令和7年度豊田市高齢者等実態調査結果等の分析について（報告事項）

【議題4】第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、第2期認知症施策推進計画（案）について（協議事項）

(2) 地域包括支援センター運営協議会に関すること

【議題1】地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について（承認事項）

【議題2】令和7年度地域包括支援センター事業報告及び収支決算について（承認事項）

【議題3】令和7年度地域包括支援センター事業評価結果の概要について（承認事項）

【議題4】令和8年度地域包括支援センター事業計画及び収支予算について（承認事項）

3 連絡事項

令和8年度豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会スケジュール

〔 議 事 内 容 〕

【議題 1】第 9 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の取組実績について（報告事項）

概要説明（高齢福祉課、介護保険課）

- ・ 計画の概要、取組実績について説明
- ・ 第 9 期計画における介護保険事業の実績

（会長）

質問はいかがか。

（委員）

13 ページの「特定施設入居者生活介護」が計画を下回ったことの要因について、施設整備が想定よりも遅くなったこととしているが、人的な不足や設備資材の入手困難等の理由があったのだろうか。

（事務局）

資材価格や人件費の高騰により、事業者の事業計画が遅れたことが原因と考えている。

（会長）

全体の実績としては大きな問題はないと思われる。強いて言えば、2 ページ重点施策 3 の 2④「ピアサポート活動の実施回数」が 1 回となっているが、1 回では成果がなかなか出ないのではないかと。

（事務局）

ピアサポート活動は、認知症を診断されて間もない方と、先に診断された市民の方が一緒に集まって、お互いの思いを共有する機会を提供するものである。本市では、令和 7 年度からピアサポートとして銘打った事業を開始しており、令和 7 年度の実施回数は 1 回であった。なお、この事業のほかに、以前から認知症本人の会や若年性認知症の本人と家族の会などを開催しており、実質的にはピアサポートの場になっている。

【議題２】介護予防事業の変更内容について（報告事項）

概要説明（健康づくり応援課）

- ・ 元気アップ教室・自主活動グループ支援、ずっと元気！プロジェクト（豊田市官民連携介護予防事業）、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業について説明

（会長）

介護予防事業の変更・追加点について、説明をいただいた。これについて、いかがか。

（委員）

「３高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」の専門職について、看護師、管理栄養士とあるが、オーラルフレイルについて、歯科の専門職に依頼していない理由があれば教えていただきたい。

（事務局）

歯科の専門職による実施についても望ましいと考えているが、人員や委託の関係で、現状は看護師・管理栄養士などでできる範囲で対応している。今後は、そういった専門職の確保も検討が必要と考えている。

（委員）

この事業の低栄養は、令和８年度の単年事業か継続事業だろうか。今後、対象者数が増えた場合は、歯科衛生士の専門職に事業を移管していくこともあるのか。

（事務局）

低栄養は、令和８年度から継続していく。現時点では、既存の専門職で実施をしていきたいと考えている。なお、来年度から実施する口腔領域の追加について、先日、歯科医師会に説明させていただいた。対象者数を加味しながら、検討していきたい。

（委員）

この事業の低栄養の基準となっているBMIについて、教えていただきたい。低栄養とBMIが、相関関係があるのか。

（事務局）

B M I は身長と体重から標準的な体型を見ている指標で、低栄養で栄養状態が悪いと B M I が低くなる傾向がある。後期高齢者医療健診の受診者に質問票を答えていただき、項目にチェックがあった方に保健指導をしている。

(会長)

低栄養の対象者数が少ないように感じるが、いかがだろうか。

(事務局)

後期高齢者医療健診の受診者が少ないことに加え、質問票の該当者となるため、このような人数になっている。

(会長)

前回の介護報酬の改定では、栄養改善と口腔ケアはかなり加算が充実しており、国の政策動向に合った取組である。

【議題 3】令和 7 年度豊田市高齢者等実態調査結果等の分析について（報告事項）

概要説明（介護保険課）

- ・ 高齢者等実態調査結果の分析、人口推計・認定者推計、重点的に取り組む必要がある施策

(会長)

人口推計について、他の市町村では高齢者数等のピークや頭打ちとなるところが出てきているが、それらとは違い、豊田市は高齢化率や認定率が上がっていくことが確認できる。調査結果については、市域が広く、都市部と中山間地域との差が顕著で、そこからもたらされている課題がみられる。

(委員)

3 ページの「都市部と中山間地域の回答の傾向」の各種リスクについて、「認知機能低下リスク」は、どのようなことで評価されているのか。

(事務局)

本人へのアンケート調査である「高齢者等実態調査」で「物忘れが多いと感じるか」とい

う質問の回答に基づき、判断している。

(委員)

本人の自覚症状で評価されているということか。

(会長)

検査結果ではなく、アンケート回答における本人の自覚によるものである。

(委員)

中山間地域については、閉じこもりリスク、交通手段がないことと、助け合いの風土や集いの場の機会がないことはリンクさせてみていく必要があろう。今後、中山間地域と都市部の傾向がさらに変わっていくと思われ、ここに書いてあるように予防などが着目されるべきであろう。

(委員)

豊田市民の約25%(10万人)が高齢者で、高齢者クラブの会員は約1.4万人である。高齢者クラブでも、「ずっと元気!プロジェクト(豊田市官民連携介護予防事業)」に参加したり、色々な介護の活動や友愛訪問活動(一人暮らし高齢者への訪問等)に取り組んでいる。高齢者はさらに増加する中、本日の資料説明や議論の中から、高齢者としてどのような対応がふさわしいかがよく分かった。高齢者クラブとしてもそれらを取り入れて、高齢者が豊かな生活を送れるようにと頑張っていきたい。施策については、市が力を入れて対応していたいており、ありがたい。高齢者クラブの加入をしていない人も含めて、すべての高齢者が、楽しめる施策をお願いしたい。

(会長)

高齢者クラブに限らず、既存の組織を介して、周知したり、取り組んでいただいたり、今ある資源を活用することもできると思う。

(委員)

高齢者等実態調査結果にあるような社会参加の二極化傾向について、私の周りを見ても、実感できる。社会参加の少ない人に情報を届けることが難しい。また、私自身も中山間地域に住んでおり、交通手段であるバスを利用する際には、自宅からバス停までは結構な坂道を歩かなければならない。本日の説明を通じて、これからの課題が見えてきた。

(委員)

豊田市は認知症支援が充実している。以前は、病院から退院してくると認知症になったという話がよくあった。認知機能が低下する中で、入院を契機に様々な環境変化で認知症が発症・進行するということが背景にあったのだろう。

在宅で認知機能の低下を自覚し始めた時に、相談できずに進行してしまい、在宅生活が難しくなってしまうことがある。病院に行く前の段階で、気楽に相談できる場所や窓口が地域にあるのだろうか、また、高齢者はその相談窓口を知っているのだろうか。

(事務局)

一番身近な相談窓口は、中学校区ごとに設置されている 28 か所の地域包括支援センターである。それに加え 2 年前より、認知症伴走型支援拠点オレンジほっとテラスを設置している。周知については、各地域包括支援センターの季刊誌（広報誌）を各家庭に回覧しているほか、相談先が分かるチラシを医療機関・薬局等に配布している。また、運転免許証の更新時に手に取ってもらえるよう警察署や自動車学校にもチラシを設置しているほか、65 歳になった方へ介護保険被保険者証を新規送付する際にも、チラシを同封している。それでもまだ認知度が 47.8 % である。

(委員)

かかりつけ医や看護師に気軽に相談でき、早期対応につながっていくと良いと感じている。

(会長)

各市町村のアンケート調査で地域包括支援センターや認知症の相談先について質問をしている。これらの結果をみると、認知症の相談窓口については「知らない」という回答が多い。また、地域包括支援センターの認知度が比較的高くても、認知症の相談窓口を知らないとの回答がみられた。市民は、認知症に関する相談はまず医療機関に行うものと考え、地域包括支援センターは少し違うのではと思っているかもしれない。

認知症の早い段階で、相談や健診を受けるのはハードルが高いと思う人が多いだろう。神戸市は認知機能健診の助成をされていて、何かあったら健診をとという働きかけをしている。

【議題 4】第 10 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、第 2 期認知症施策推進計画
(案) について (協議事項)

概要説明 (高齢福祉課)

- ・ 計画の体系、重点施策、基本施策、指標等の設定等について説明

(会長)

重点施策の設定、指標・評価の仕組みなどについて、いかがか。

(委員)

7ページの「電気使用量等の生活データ解析による早期発見実証」については、市の報道発表資料「水道と電気のスマートメーターを活用した介護予防の実現可能性に関する実証実験」のことであろうか。

(事務局)

その通り。昨年度より実施している事業で、今回、水道のスマートメーターの活用を加えている。

(委員)

各種事業の参加者や調査の回答者は健康意識が高い人が参加する傾向にあるので、このような客観的なデータは非常に良いと思う。このようなデータが認知症などにも拡充されれば、より有効な取組になると思う。

(委員)

3ページの「(4) 現行計画の評価」について、「高齢者が安心して暮らせるまちとして満足」部分で、65歳以上の満足度が上がっているが、それ以外は下がっていることについて、対象者などの補足説明をお願いしたい。

(事務局)

こちらは市民意識調査の数値で、18歳以上の市民を対象としている。

(委員)

生産年齢人口（一般的に15～64歳）の満足度は下がっているが、65歳以上は上がっているということか。

(事務局)

その通り。

(委員)

高齢者の保健事業において、いかに孤立・孤独化しないかということを考えている。中山間地域は移動手段に課題があり、足助・旭・稲武は閉じこもり傾向があることを踏まえ、地域の中で移動ができるような施策に取り組まないと、認知症リスクの低減、フレイル予防につながらない。市の移動支援の具体的なモデル構築の考えがあれば、教えていただきたい。

(事務局)

現在は共助交通で進めていくことを考えているが、これからも課題としては必要な施策であると承知している。交通部局の方にも確認をしながら、何かやれることはないかと探っていく余地はあると思う。

(委員)

7ページの②つながる仕組みの充実「場につながる情報発信」について、議題3でも情報不足が問題とあったので、こちらが取り上げられるのは良いことである。評価については、どのような評価をしていくのか。

(事務局)

例えば、仕組みの基盤ができるかがアウトプットとして考えられる。また、9期計画の指標として、集いの場につながった人数を把握している。これらを踏まえて評価指標を考えていきたい。

(委員)

「知っている」と「活用できる」は異なるので、そこを意識した施策の評価を考えていただきたい。

(委員)

重点施策3の相談については、相談窓口があってもつながっていないことが課題なので、相談先が全くない高齢者がいないようにという指標は良いと思う。物忘れが心配でも、なかなか家族や医師に相談しづらいと思っている人がいる。そういう人が、町内会・民生委員・老人クラブなど少し離れた地域の人に相談をして、そこから窓口につながっていくことも考えられる。これは、新しい認知症観に基づいた認知症支援にもつながっていると思う。

また、議題1の2ページ2(2)3「介護サービス人材ベースアップ支援」について、研修の参加者が23人ととどまっていることが気になっていた。議題4の8ページにある重点施策2「介護人材の確保・育成」については、単に介護人材の養成に焦点を当てるのではな

く、人のつながりを生み出すための「掲示板の運用」を取り上げている点や、空いた時間を活用したボランティア活動や、企業CSR（企業の社会的責任）としてのボランティア活動、さらには単発ワークや多業など幅広く捉えている点が非常に良いと感じた。

また、15ページの部分の指標評価について、定量だけでなく定性評価を考えていることを評価したい。豊田市では重層的支援体制整備事業の取組で、変化した事例を収集してみんなで評価をしている。それと同様にエピソードや事例を収集することで、定量では測れない質の変化が見えてくると思う。

（委員）

17ページの重点施策①「社会とのつながりを軸とする健康づくり・介護予防」について、集団活動をイメージするが、集団が苦手な方もいたり、特定の時間に特定の場所に行けない人もいたりする。このため、自分のペースで健康づくりを図ることも重要な視点ではないかと考える。例えば、豊田市では70歳以上の市民を対象に、公共施設の利用料の無料化をしており、プールやトレーニング施設などが健康づくりや介護予防の重要な社会資源となっている。

（委員）

数値目標について、議題1に達成率200%などの指標がみられるが、もう少しシビアに設定してはいかがだろうか。

8ページの「短時間・単発ワークの活用」について、私の事業所では6月実績で32名126回来てもらっている。職員の有給休暇の取得などにつながっている。まだ活用していない事業所も多いと思われ、今は私の事業所では多くの人材を確保できているが、今後スポットワークがさらに普及していくと確保は難しくなると思われるので、委員が言われていたような違う施策を進めていかなければ人材確保の課題に追いついていけないと思う。今後も一緒に考えていきたい。

（会長）

大きく変えた方が良く、指標の取り方に課題があるという意見は、特になかったと思われる。

強いて言えば、新しい認知症観の普及に向けて、古い認知症観が残っているとすれば、そこに焦点を当てた取組があつて、そこを評価する指標があつても良いと思う。偏見や先入観が多分にあると思われ、そこが解消されないと、「認知症になっても安心して暮らし続けることができる」と感じる高齢者の割合が上がってこないだろう。

委員より実証データで測れるもの、委員より事例で検証していく評価について意見をいた

だいた。エビデンスとナラティブ（その人にとって何が大切か）両方を追求していくことが大事と思われる。

（２）地域包括支援センター運営協議会に関すること

【議題１】地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 新規に委託契約を締結した事業所、委託の偏りについての説明

（会長）

委託先の偏りについては、委託先が僅少、もしくは、本人の希望によるものということである。

では、承認について挙手をお願いしたい。

（承認の確認）

承認されたので、次の議題に移る。

【議題２】令和７年度地域包括支援センター事業報告及び収支決算について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 事業報告、収支決算の説明

（会長）

地域ケア個別会議の回数が減少しているが、事業全体は順調であろう。

では、承認について挙手をお願いしたい。

（承認の確認）

承認されたので、次の議題に移る。

【議題３】令和７年度地域包括支援センター事業評価結果の概要について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 事業評価の説明

（会長）

3ページを見ると、地域包括支援センターの自己評価は厳しめであるが、市は高い評価をしている状況である。

では、承認について挙手をお願いしたい。

（承認の確認）

承認されたので、次の議題に移る。

【議題4】令和8年度地域包括支援センター事業計画及び収支予算について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 事業計画、収支予算等の説明

（会長）

特に意見がないようなので、承認について挙手をお願いしたい。

（承認の確認）

承認された。全体を通していかがだろうか。

（委員）

地域の体操などに、出てくる人と出てこない人がいる。出てこない人について、特に認知症が気になると地域の活動への参加も控えるようになりがちで、そういう人をどうやって支援していくかが課題である。

地域包括支援センターはどちらかというと「要支援の人」を支援する場所かと思っていたが、様々な機能があることがよく分かった。

（会長）

「予防」の重要性が強調されるあまり、予防できなかった人や予防の枠組みから外れてしまった人が居心地の悪さを感じたり、自分の居場所がないと感じたりする状況は望ましくない。そうした方々にも目を向けながら、施策を進めていくことが重要である。

(委員)

水道と電気のスマートメーターを活用した介護予防の実現可能性に関する実証実験の取組について、具体的で分かりやすく良い取組だと思う。このようなデータの活用から見えてくることも多いと思うので、今後も取り組んでいただきたい。

(委員)

議題3の令和7年度豊田市高齢者等実態調査結果における中山間地域と都市部の違いの話を聞いて、思っていたことが示されて実感することができた。

新しい計画について、高齢化・独居世帯の増加という課題とともに、身寄りのない方の増加という側面もあり、現在の見守りネットワークなどに加えて、これからの単身高齢者の増加に対して新たな施策が必要かもしれない。地域性の分析において、中山間地域についてサービスの提供の話が出ていたが、生活環境の課題に対する施策があっても良いかと思った。